

## 重症心身障害児（者）病棟に入所されている患者さんのご家族、ならびに後見人の方へ

福岡東医療センター リハビリテーション科で以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	当院の重症心身障害児（者）病棟での経口摂取維持に向けた取り組み～多職種摂食ラウンド開始から10年を経て～
【研究実施期間】	倫理委員会承認日～2026年3月31日
【研究実施機関・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター リハビリテーション科 研究責任者 言語聴覚士長 佐藤文保
【対象となる方】	西暦2013年4月1日から西暦2025年3月31日までに、当院重症心身障害児（者）病棟に入所し、多職種摂食ラウンドで定期的な摂食嚥下機能評価を実施した患者73名 選択基準 ① 西暦2025年3月31日時点で当院の重症心身障害児（者）病棟に入所している患者 ② 初回介入から9年以上が経過している患者 除外基準 ① 次頁4.2.に掲げる研究・調査項目のデータが不完全で解析に支障がある患者 ② 研究責任（分担）者が本研究の参加について不相当と判断した患者 ③ 摂食嚥下機能評価を実施していたが経口摂取不可能となったため、介入中止となった患者
【研究の意義、目的、方法】	意義：重症心身障害児（者）病棟で10年間取り組んできた多職種摂食ラウンドでの摂食嚥下評価において、経口摂取が維持できている患者の要因が明確になれば、重症心身障害者

	<p>の加齢や重症化に伴う誤嚥・窒息のリスクの軽減、さらなる経口摂取の維持に繋がることを期待できる。</p> <p>目的：当院の重症心身障害児（者）病棟で10年間定期的実施してきた、多職種摂食ラウンドでの摂食嚥下機能評価から、経口摂取が維持できている重症心身障害者に関連する要因を検討する。</p> <p>方法：口腔運動機能や食具食べ機能、食環境、食内容などについて評価を行い（大塚，2013）、介入時と現在の状況を比較した。</p>
<b>【利用する試料・情報の種類】</b>	臨床所見（年齢、性別）、経過（介入からの年数）、摂食嚥下評価記録（摂食開始前評価、口腔諸器官の機能、自食の機能、食環境、食内容、診断）
<b>【個人情報の保護】</b>	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
<b>【問い合わせ先】</b>	<p>独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター リハビリテーション科 言語聴覚士長 佐藤文保</p> <p>住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1</p> <p>電話番号：092-943-2331 （代表）</p>